

創立110周年 記念座談会

東京岐阜県人会110周年記念総会を終え、山本幹事長をコーディネーターに、佐藤青年部部长、八木総務委員長、松井広報委員長、谷口親睦委員長によって、今までの10年を振り返り、これから迎える120周年に向けての取り組みを語っていただきました。



山本 110周年記念特集号の企画として、57号は「若者」、58号は「女性」による座談会を行いました。今回は幹事の中から委員長、部長の方による

役員座談会として締めくくりたいと思います。まずは110周年の記念事業を終えて、それぞれの方の感想を述べていただきたいと思えます。松井さん、八木さんはかつては青年部の中核だったわけですが、まずは現在の青年部部长の佐藤さんよろしく願います。

佐藤 諸先輩が築いていただいた青年部勉強会の会場となっていた「ラピロス六本木」がなくなつて、しばらく勉強会を休んでいた訳ですが、110周年を一つの契機として、青年部の執行部も新たになり、勉強会を復活する気運になつたのが良かったと思います。

復活というより、新たなスタイルの勉強会になればいいと思っています。また、勉強会が基礎になると思いますが、夏のイベントとか冬のイベントを青年部が中心になつて盛り上げていきたいと思えます。

また、最近次の10年に向けて、情報発信の



ツールとしてホームページに加えてフェイスブックを立ち上げました。それを機に情報の発信の仕方を今まで以上に細かに幅広くする為に、双方向

の新しい媒体やメディアを使った情報発信のきっかけもできたと思えます。

山本 新しい青年部は過去の盛んだった時代に帰るといふことではなく、新たな時代に立つた「青年部」がスタートしたということです。県人会としてもバックアップしていきたいと思えます。次に広報委員長の松井さん、この一年間を振り返つての感想をお願いします。

松井 この一年間、前広報委員長の故 神谷拓雄さんの頑張りで、「岐阜ネット」の特集として、若い人たちや、多くの女性の方々による座談会をやつたことにより、今まで県人会に参加したことのない方々の参加の機会になりました。これからもこの方たちに少しでも県人会に興味を持っていただき、長い付き合いをしていただけたらいいなあと思えます。その中で女性の平良さんなどは、すでに青年部復活の第一回

座談会参加者（あいうえお順）



山本 康夫
《瑞浪市出身》
コーディネーター
東京海上みづつたま会事務局長
(元 東京海上日動HRA
常務取締役)



佐藤 彰
《可児市出身》
岐阜新聞東京支社



谷口 智治
《高山市出身》
一般社団法人
全国経営者団体連合会
理事長



松井 茂久
《関市出身》
県立岐阜商業高校同窓会
関東支部長
博宣(株) 代表取締役



八木 茂樹
《下呂市出身》
公認会計士・税理士

『東京 岐阜県人会』



勉強会の講師もやっていただき、とても好評だったと聞いております。110周年を機に、山本幹事長のお蔭で、このような方とご縁ができたことに感謝します。

山本 ありがとうございます。それでは次に総務企画委員長の八木さんよろしくお願いします。

八木 総務企画委員会としては、総会、懇親会、講演会の開催ですから、これまでと企画内容としては同じですが、中身は少しばかり豪華に盛りだくさんにいたしました。

講演会については、普通ではなかなかお願いすることが難しい方ですが、立川会長のご縁で、「はやぶさ」プロジェクトマネージャーである川口潤一郎教授による未知の世界のお話や、個性ある人材の育成など、大変興味深い講演会となり、参加者の好評を得ることができました。

また、総会・懇親会では岐阜県出身の歌手、石原詢子さんをお招きして、演歌を披露して頂

きました。演歌ですから多少地味ではありますが、出席者は中高年の方が比較的多い訳ですから、この方たちに受けが良かったのか、例年より多くの方に出席していただき楽しんでいただけたと思います。

山本 ありがとうございます。今回はもう一人の委員長である、フェローシップ委員長の浅野さんが仕事の都合で欠席されていますので、私が代わって報告させていただきます。

フェローシップ委員会では、会員増強がテーマですが、過去10年程度、会員数は会員の高齢化に伴って、純減推移してきましたが、この一年間は110周年キャンペーンをやったこともあり、30名ほどの純増に転じたことは、会としては大変心強く思っていますし、今後につながる周年事業になったかと思えます。

それらの事を踏まえて、10年先を見据えて、どういうことを重点に県人会を引っ張って行ったらいいのか、佐藤さんからは先程少し頭出しはしていただきましたが、改めて佐藤さんに青年部活動と県人会を含めた方向性をお話しただけですでしょうか。

佐藤 企画はまだ始まったばかりですが、フェローシップ委員会の方たちや他の委員会ともお互いに人材を紹介し合ったり、協力して県人会の魅力づくりをやっていきたくと思います。青年部には、若い人たちがたくさん来てくれるようになってきたとは思いますが、まだまだ多くの方が県人会の一員となってやっていくという気持ちにはなっていないので、まだまだ青年層にとって県人会にそれだけの魅力がないのではないかと思います。

今後は、東京岐阜県人会というブランドに磨きをかけて、そこに行くこと岐阜県出身の若い人たちが何となく楽しそうにやっているとかが、勉強になるとか、一生懸命真剣に取り組んでいるとか、そんな雰囲気を感じる情報ツールを使って、もっともっと外に発信して若い人たちがキュッと集まるような、魅力づくり、雰囲気づくりを企画していくことで、東京岐阜県人会を若い層で盛り上げていきたいと思っています。

山本 県人会の役割の一つに、岐阜県から上京してきた若者たちを、先輩たちがサポートしていく風土を作ることが大事だと思っていますが、今日ご出席の松井さん、八木さんはかつて盛んだったころの青年部の立役者ですから、そのころを振り返って何かアドバイスいただけたらと思いますが、八木さんいかがでしょうか。

八木 それはちょうど100周年前後の頃のことだと思えますが、毎月決まった日に決まった場所で継続してやっていたということで、いちいちアナウンスしなくても毎月時間と場所が分かっていますから、講師まではつきり決まっていなくてもありました、「継続は力なり」で、人が集まってきたと思います。



そして、そこには中核となる人たちが何人かいました。特に女性の宮本さんなどは若い人たちを何人も誘ってきてくれました。岐阜新聞の桑原さんもまたメディアの強みを生かして、岐阜県出

身の著名な方たちをつれて来ていただいたりしました。うまくいったのは、協力者の存在と継続性が大きなパワーになっていたと思います。

山本 それでは松井さんからも一言アドバイスをお願いします。



松井 今後は120周年を迎えるときに現役で活躍している若い人たちが、今ビジョンを掲げ、そのビジョンに向かって活動していくべきだと思います。

先ほど佐藤さんからは、そんなお話も伺いましたので大変心強いのですが、かつての県人会は岐阜を懐かしむ、岐阜を語り合う場だったと思いますが、これからは岐阜という共通のキーワードを共有しながら、そこから情報発信していく、そして情報交流していく場にごんごん加速していくような気がします。ですから、そこに岐阜県人会の役割というか、ビジョンを作っていくかという魅力を感じてもらえないのかなと思います。

当然、今はまだ中高年の会員さん多いらしいです。「岐阜ネット」という情報誌の役割は、サービスのひとつとして必要ですが、これからは、日常的に大量の情報を多くの方を対象に瞬時に伝えることのできるメディアの活用は不可欠だと思います。

山本 それでは、今現在やっている事業を

もっと魅力的にしていくなために何が必要かご意見を親睦委員長の谷口さんお願いします。



谷口 確かに今までの懇親会や講演会もいいですが、それより若い人たちは「岐阜のおいしいものを食べに行こう会」とかB級グルメじゃないけど、話題に上がっている食べ物を集めてそこにみんなで行こうとかといったイベントの方が人気が出そうな気がしますね。

松井 確かに若い人たちのニーズをしっかり捉えて事業の企画をすることは大切ですが、一方で、今まさに60半ばの団塊の世代と言われる方たちは、若い人と違って、時間とお金に余裕がある人が多いと聞いていますが、まだまだ元気ですから、この人たちのニーズにも応えていきたいですね。

谷口 かつては中高年の方たちによる旅行会も大勢の参加者がいて、結構派手にやっていた時代がありました。親睦委員会でも、最近何度か故郷の名所や名湯を訪ねる旅行会を企画しましたが、これがなかなか集まらないのでキャンセルになってしまいました。希望者がいれば是非やりたいのですが、まずは10人〜20人確実な参加者がいて、募集をするところからスタートできたらいいですね。

ゴルフも過去には100人を超えるようなコンペもあったようですが、最近では20〜30

人のコンペと規模は自然に縮小しています。しかしこれからも継続してやっていきたいと思っております。皆さんも是非参加してください。

山本 それでは、そろそろ時間も迫ってきましたので、皆さんの貴重なご意見を今後につなげて、県人会が充実しますようよろしくお願いいたします。

